

真山青果 劇作家。小説家として登場も退去，曲折を経て，40半ばから優れた史劇を続々と発表，新歌舞伎の大家になった。

まやませいか

大久保暗殺・1878 = 仙台で，のち小学校校長となる旧仙台藩下級士族の長男に生まれる。

明治14年政変1881 = 3歳：

国民之友始・1887 = **9歳**：

帝国憲法発布1889 = 11歳：

日清戦争始・1894 = 16歳：海軍兵学校の受験を父に反対されて出奔，
上京して，

白馬会・・・1896 = **18歳**：日本中学を卒業後，帰郷して第二高等学校医学部に入学するが，

ビア国産化・1900 = 22歳：怠けて進級できず，
中退し，
薬局生，代診，私立中学の国語教師などをして放浪するうち，

日比谷公園・1903 = 25歳：徳富蘆花の「思出の記」に感激し，再び上京して蘆花を頼ったが断られ，佐藤紅緑の家に寄寓，

日露戦争終・1905 = **27歳**：短編「零落」を発表して文壇デビューし，(硯友社)小栗風葉に入門，愛憎こもごもの師弟関係のなか，

韓国反日暴動1907 = 29歳：(新潮)に発表した「南小泉村」により，一躍自然主義小説家として認められた。また，イブセンの影響のもとに戯曲「第一人者」以下を発表，劇作家としても注目されたが，二度にわたって原稿二重売り事件を起こし，激しい非難を浴びて文壇を遠ざかる。

明治天皇没・1912 = 34歳：

大正政変・・・1913 = 35歳：喜多村緑郎に誘われて松竹に入社，

第一次大戦始1914 = **36歳**：新派座付作者となり，亭々生の筆名で多くの創作，脚色を手がけた。

原敬首相暗殺1921 = 43歳：

関東大震災・1923 = **45歳**：

護憲三派圧勝1924 = 46歳：*{中央公論)に「玄朴と長英」を発表，劇作家としての声価が一挙に高まり，文壇に復帰，

治安維持法・1925 = 47歳：「平将門」，

日本時代始・1926 = 48歳：史劇は，この年2代市川左団次が上演した「江戸城総攻」はじめ，「大塩平八郎」，

共産党事件・1928 = 50歳：「償金四十万弗」，
「坂本竜馬」をはじめ，

「江藤新平」4部作，

満州事変・・・1931 = 53歳：

五一五事件・1932 = **54歳**：「国定忠次」，

「人斬り以蔵」や

帝人疑獄事件1934 = 56歳：「江戸城総攻」3部作など，*数多くの作品を提供して，新歌舞伎を確立。「大石最後の日」から，

芥川直木賞始1935 = 57歳：「隨筆滝沢馬琴」と，

二二六事件・1936 = 58歳：「仙台方言考」に，江戸地誌から方言までの学殖の一端をうかがうことができる。

日中戦争始・1937 = 59歳：

日米開戦・・・1941 = **63歳**：*「泉岳寺の一日」に至る連作「元禄忠臣蔵」は，戦前を代表する頂点となった。

戦中にいたるまで60余編の史劇を書き，2世市川左団次をはじめ沢田正二郎，井上正夫，前進座など広い分野の俳優や劇団による名舞台が残され，綿密周到な史実の考証のうえに，相反する強烈な性格を対立させ，規模雄大な悲劇を完成して，日本近代の代表的劇作家となった。新派の作品には，脚色に「たけくらべ」「酒中日記」，創作に「雲のわかれ路」「仮名屋小梅」などの名作がある。西鶴研究では「西鶴語彙考証」のほかに「小判拾壱両」以下の脚色がある。

敗戦・・・1945 = 67歳：

極東裁判決・1948 = 70歳：_没した。